

# 早期発見で今の幸せがある

# 乳がん検診の大切さを訴え

## 乳房切除の保育園長・安達さん 松江



乳がん手術で両乳房を切除した経験を踏まえ、検診の大切さを訴え続ける女性がいる。みつき乳児保育園(松江市西津田7丁目)の安達春美園長(52)―松江八雲町熊野。2年前の検診で発覚し、茫然自失したが「私は伝えていく運命なんだ」と前を向いた。園児の母親らを対象に、乳がんと子宮頸がんについて学ぶカフェを開いたり、検診車を招いたりしており「お母さんが元気でないと家族は笑顔で過ごせませんよ」と優しく呼び掛ける。

(片山大輔)

17日、同園駐車場に検診車が巡回し、園児の母親や祖母ら約80人が受診した。島根県奥出雲町上三所の会社員松崎晶子さん(41)は「自身の経験を踏まえた園長先生の活動に感動した。」

### 母親ら集め 勉強会

### 「伝えていく運命」

検診の機会をつくってもらって、ありがたい」と話した。

安達園長に乳がんが見つかったのは2014年8月。園児の母親らとがん検診の重要性について話し合う安達春美園長(左から3人目)―松江西津田7丁目、みつき乳児保育園

月。両胸に初期のがんだった。自身が20代に母親を乳がんで亡くし、毎年検診は受けていた中で突然の告知。同年2月に腎臓がんで夫を亡くしたばかりでもあり、頭が真っ白になった。「義父母や子どもたちにも伝えていこう」と仕事はできなくなった。主治医から説明を受け、車に乗り込んだ瞬間、さまざまに思いがこみ上げ、涙が止まらなかった。家族や園児に失意に沈んだ姿を見せられないと気持ちを切り替えたつもりでも、寝床に入れば涙が流れた。笑顔を届ける場であるはずの保育園で泣く日があった。

女性の12人に1人が乳がんになる一方、早期発見すれば約9割が治るとされる。フリーアナウンサー小林麻央さん(34)ら芸能人の公表で若年層の関心が高まる中、啓発の重要性を日々

「自分は罰を受けているのだろうか」と悲観する毎日。そんな中、左乳房の切除を終え、右乳房の手術で入院した時にがんになった意味を考えた。「園長の立場とがんの経験をを通して、伝えられることがあるはずだ」と思い立った。

主治医や松江市役所の保護者らに訴える。